

日本の道路

自動車による輸送は、1950年代後半からの高度経済成長の時の自動車の普及(モータリゼーション)や高速道路網の整備によって、飛躍的に発展しました。現在、特に貨物輸送では、陸上輸送の中心になっています。しかし、排出ガスなどから、環境への配慮が課題とされています。

日本の主な道路

- 主な高速道路開通区間
- 主な国道

(2012年)(国土交通省資料ほか)



↑東名高速道路 日本の高速道路の大動脈。全区間の平均交通量は1日8万台に上る。(JTBフォト)

日本の橋とトンネル

日本は、4つの大きな島からなり、地形は山がちです。そのため、全国を結ぶ交通網を整備するためには、多くの橋とトンネルを建設する必要がありました。

青函トンネル・新関門トンネル・瀬戸大橋など、多くの橋とトンネルが、長い年月と多くの費用をかけて完成しました。開通により、その土地に住む人々にとっても、仕事や観光で訪れる人々にとっても、またものの流通にとっても、時間距離が縮まりました。



瀬戸内しまなみ海道 (1999年開通)

新関門トンネル (1975年開通)

本州四国連絡橋

明石海峡大橋 (1998年開通)

瀬戸大橋 (1988年開通)

大鳴門橋 (1985年開通)

恵那山トンネル (1975年開通)

関西国際空港連絡橋 (1991年開通)

日本の主な橋とトンネル

←瀬戸大橋 岡山県の児島(倉敷)と香川県の坂出を結ぶ。この他、神戸・鳴門ルートや尾道・今治ルート(瀬戸内しまなみ海道)の3つのルートがある。

(JTBフォト)



● 地理キーワード 「時間距離」というのは、ある地点から別の地点に行くまでにかかる時間を、距離に見立てて表す言い方です。「家から学校まで徒歩10分」という言い方が、これに当たります。